

五戸総合病院での研修を終えて

(平成30年6月研修医)

大阪市立大学医学部附属病院

初期臨床研修医 小野田 真保

平成30年6月1日から6月30日まで五戸総合病院にて研修させていただきました、大阪市立大学附属病院研修医の小野田と申します。研修としては内科の外来、病棟、検査に関わり、ときに小児科外来にお邪魔したり訪問診療や児童健診に参加させていただいていました。他にも新井田先生の関わっておられる町のケア会議にお邪魔させていただいたり、地域包括支援センターの催しに呼んでいただいたり、行政の活動も見せていただきました。

来てみて一番に感じたのは患者さんの平均年齢が高いことでした。100歳に届くような方や寝たきりの方をこんなに見たのは初めてです。大阪でも90歳台の患者さんに接することはありましたが、それとは比べ物になりませんでした。また外来でもそうですが、病院の待ち合いではよく日焼けしている円背で土だらけの指の方がたくさんいらっしゃるのも印象的でした。そういう方々は元気であることが多く、畑仕事は生き甲斐かつトレーニングとしてかなり大きな部分を占めているように感じました。

習慣に関して考えさせられたのは、生活習慣病がかなり多いことでした。「畑仕事をして一服喫煙する」「移動は車」「晩酌は欠かさない」ここに介入するのは一見の私には難問でしかありませんでした。何かやってみても最早1か月後には私はおらず、フィードバックはないのでなおのこと気を遣います。本当に人の人生に突っ込んで行くためには少なくとも半年、出来れば年単位でいないと本当に患者さんのためになることは出来ないのだと痛感させられました。また、私はこれまで経験がないなりにガイドラインや標準治療を武器に患者さんに関わるという形で何とか来ました。しかしここでは治療のみならず、生活や家族関係、自宅の環境がとても大切でした。本当に患者さんと向き合えないと十分なサービスを提供することは出来ないだと痛感する日々で、そこまで考えられたのかと問われると自信がありません。

自分の力不足を認識する日々ではありましたが、自覚出来ただけでもこの1か月には価値があったと考えております。貴重な機会を提供いただいた五戸総合病院のスタッフの皆様、またご支援いただきました青森県に深く感謝し、以上を感想としてしたためさせていただきます。